

第4日（9月18日）

13 杉崎辰行 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

人口減少社会への対応に関連して 一生活の安心と健康の安全一

今からの未来は、過去からの延長線上にはない。今までの常識ではなく、思考を大胆に転換すること。実現可能な目標を立て、何年も何世代も継続していく取り組みが必要となっている。

今世紀中には、世界人口の減少が始まるとする説もある。その意味からも日本の施策は、注目されているだろうが、緊迫感のなさを感じる。

私たちは、地域でできる身近な対応から取り組み、地域住民の安定した持続可能な生活を実現したい。

(1) 自治会の維持に関連して

まず自治会関連について、行政による公共サービス提供の限界、厳しい財政状況等と地域コミュニティの構成員高齢化、担い手不足などによる存続上の課題があるので伺う。

ア このような現況を、市長はどのように認識しているか伺う

イ 自治会構成世帯の格差について、現状のままでよいのか、市長の認識を伺う

ウ 自治会長は自治協力員となっているが、この身分は非常勤特別職なのか伺う

(2) 安全な食糧自給について

次に、安全な食糧の地域自給率の向上のために、その対応について伺う。

ア 地域食糧自給率の向上について、市長の認識を伺う

イ 農地の見通しとその確保について、市の対策を伺う

ウ 漁業と農業の将来性について、市長の認識を伺う

14 深田百合子 議員（質問方式 一括）

答弁を求める者 市長、教育長

1 コロナ禍で厳しさ増す暮らしと営業を守るために～国保税減免の簡素化、消費税引き下げ、社会的弱者に配慮したプレミアム商品券第2弾等を

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が解除されて3カ月。日本共産党市議団は、コロナ対策や支援に対するご意見やご要望を伺うため、8月から「2020市民要望アンケート」に取り組んだ。

厳しさを増す『暮らしと営業』への意見・要望から4点伺う。

(1) 国保税減免等簡素化

暮らしや営業が悪くなった方は半数を占め「市税や水道料、介護保険料の猶予や国保税の減免など」を求める要望が一番多い。本市の取り組みはどうか。また国保税減免等の手続きの簡素化を

(2) 消費税引き下げ

売上が減少する中「消費税引き下げ」を求める声は切実である。赤字でも中小規模事業所は消費税10%分を納めなければならない。国へ消費税を5%に戻すことを働き掛けられたい

(3) 第2弾持続化給付金、事業継続応援給付金

「新しい生活様式」の下で利益は減少、長丁場である。国の「持続化給付金」第2弾実施の働きかけや市独自の「事業継続応援給付金」第2弾の実施を

(4) 第2弾社会的弱者に配慮したプレミアム商品券

「プレミアム商品券（どこチケ）」は、特に記述が多く、「毎日何回電話してもつながらず、とうとう買えなかった」、「高齢者が100回以上かけたけどつながらなかった」、「市民全体にして欲しい」、「別の方法を考えて欲しい」など、電話で予約できなかった方々から、沢山のご意見が寄せられている。そこでGoToやいづキャンペーンの第2弾の予算を流用し、前回プレミアム商品券を買えなかった方々を対象に、社会的弱者に配慮したプレミアム商品券第2弾の実施を

2 新たな段階に入ったコロナ感染症対策～感染した時の対応策の啓発、PCR検査の拡充及びGoToやいづキャンペーンは見直しを

『コロナ感染症対策』では、「自分や家族が感染した時の対応策」、「PCR検査がすぐ受けられること、医療や療養施設の体制の充実」、「コロナ感染症への特效薬（ワクチン）」、「GoToキャンペーンの見直し」等、対応策等正確な情報提供とGoToキャンペーンに対する税金の使い方などが多く、以下意見・要望から3点伺う。

(1) 対応策、支援策の講座やパンフレットによる情報提供と濃厚接触者（自宅待機者）への対応

感染した時の対応策では、「コロナに感染してしまった場合、どんな経緯をたどるのか、具体的に理解できる情報が欲しい」、「市内で軽症者が出たらどこで過ごすのか、ホテルの借り上げはどうか」、「せめてPCR検査数の実績を公開して欲しい」、「小さい子どもがいるので家庭内で感染した場合の対応を知りたい」など、きめ細かな感染時の対応策や「静岡県帰国者・接触者相談センター」（中部保健所）管轄のPCR検査数や医療体制の充実を望む声が多い。県の「6段階警戒レベル」等及び感染拡大状況評価指標がホームページでは情報提供されているが、保健所管轄ごとの相談・PCR検査数の状況はわからない。そうした数値と予防策・感染した時の対応策、支援策の講座の実施を。またわかりやすいパンフレットの作成を。パンフレットはホームページだけでなく回覧板で配布をされたい。また、濃厚接触者として自宅待機となった人の中には、買い物等の支援が必要な人がいる。その人たちへの支援を

(2) 「地域外来・検査センター」（PCR検査）

県の委託を受け、市と医師会の連携によるPCR検査のための「地域外来・検査センター」が、10月以降に開設されるとのことだが、対象・手順・開設日時、負担額等、概要を伺う。また医療・福祉施設職員の定期的検査と市の補助を

(3) GoToやいづキャンペーン見直し

「GoToキャンペーンはコロナ禍が終息してからのキャンペーンである」、「Go

Toキャンペーンが始まってから、あつという間にコロナにかかってしまった人を心配する」、などGoToキャンペーンの見直しを求めるご意見が多い。本市のGoToやいづキャンペーンの取り組み状況はどうか。また見直しについて伺う

3 コロナ禍においても子どもを核としたまちづくりのために～少人数学級、小学校区に居場所づくり、プレパパママ教室再実施等を

(1) 少人数学級

『子育て・教育に望むこと』では、「三密を防ぐならまず学級定数を減らしたい」、「教師は休日も出勤して仕事をしている」、「職員室に先生がいるようにしてほしい。現状殆ど先生が居なく、緊急対応ができない」、「少人数学級の実施を優先することにより先生方の多忙化も改善される」、「一学級を少ない人数で落ちこぼれをなくしてほしい」、「全学年30人学級に」など学級定数改善の要望が最も多い。少人数学級で先生方の多忙化の解消を

(2) 小学校区に1か所の居場所づくり

「娘婿の突然の他界により、娘と孫が戻り暮らし始めた。孫が成人するまでこれから20年間、親世代の支援だけでは成り立たない。周りの支援と援助をお願いしたい」、「近くに遊べる公園がない」など、どの子も小学校区で安心して過ごせる要望が多い。兵庫県明石市は「こども食堂」を全小学校区（全28小学校区44ヵ所）で実施。子どもの総合的支援につなげる気づきの拠点とし、すべての子どもが気軽に立ち寄れるようにしている。しかも子どものみならず高齢者など地域みんなの居場所になっている。必要な材料費・運営費などは市が支給している。本市も明石市を参考に全小学校区に1ヶ所、異年齢の子どもたちが集い遊び食べて楽しめる「居場所」を位置づけ地域で実施できるよう支援を

(3) プレパパママ教室の再実施

「プレパパママの無料講座がなぜ焼津市にはないのか。他市に学ぶべき」のご意見がある。本市も以前は実施していたが現在はおこなわれていない。生まれてくる赤ちゃんのことを、ママだけでなくパパも楽しく妊娠・出産、育児、栄養などを学んで心と体の準備をしていくことが、男性の育休を増やしDVをしない対等な父母、親子関係になっていくことにつながると考える。ぜひプレパパママ教室の再実施を

(4) 他県で学ぶ大学生等への支援

「初めて他県に出て住む大学生活と勉学をコロナ禍で過ごす心細さに加えてアルバイトもできず切り詰めて生活している。市から援助を」、「コロナで帰省できない状態。磐田市のように他県で学ぶ大学生に、地場産品を送っていただけると嬉しい」などの要望がある。他県で学ぶ大学生への支援を

(5) ネット環境支援

「コロナで教育格差が一層広がったように感じます。親に時間とお金がない＝子どもの将来につなげられない」などの悲しさをなくすために、小中学生のパソコン整備ではモバイルルーターなど、ネット環境がない家庭に支援を

(6) 保育士等への応援給付金

6月議会で要望した医療・介護・障害施設の職員への慰労金が、現在「新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金・感染予防対策等支援金」として県が申請

受付を開始している。一方、財務省は保育所、学童保育所、児童養護施設、産後ケア事業等の児童福祉施設等の職員を対象から外した。コロナ禍で毎日気苦労している保育士等児童福祉施設の従事者へ市の応援給付金を

4 焼津駅南口の近く「スーパーマーケット」等の誘致支援を

「スーパーマーケット」等の誘致支援

『お住まいの地域で困ったこと』では、「駅前通りも、お豆腐屋がなくなり、魚屋、八百屋がなくなる、年寄りの買い物難民がでないようにしてほしい」、「駅の近くに住んでいますが、スーパーもコンビニもない駅は焼津だけです」、「近くにスーパー、コンビニがなく、高齢者の買い物が不便」など、焼津駅南口の駅の近くに住んでおられる方々から買い物に困っているご意見が多い。早期に買い物解決に向けスーパーマーケットなどの誘致に市の支援を求めたい